

センコーグループ 第102期 報告書

2018年4月1日～2019年3月31日



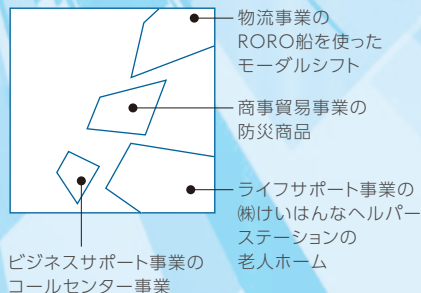
センコーグループ 第102期 報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

目次

- 1 グループ企業理念・体制
- 2 株主の皆さまへ
- 5 セグメント別の概況
- 7 フォーカス
- 9 トピックス
- 11 CSR
- 13 財務諸表グラフ

表紙の写真について



グループ企業理念

ミッション 普遍的な使命

人を育て、人々の生活を支援する企業グループとして、物流・商流事業を核に、未来を動かす
サービス・商品の新潮流の創造にたゆみなく挑戦し、真に豊かなグローバル社会の実現に貢献します。

ビジョン 目指す企業グループ像

未来潮流をつくる 企業グループ

スローガン ミッション&ビジョンに込めた想い

Moving Global

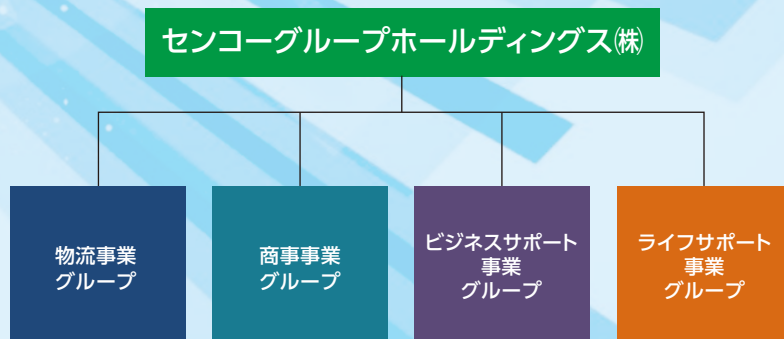
物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える。

バリュー グループの全社員が共有する価値観

誠実・情熱・責任・敬意・多様性

Integrity Passion Commitment Respect Diversity

グループ体制



中期経営5ヵ年計画 **SIP21** の3年目の年として、 多様な事業に積極的に取り組んでいきます



センコーグループホールディングス株式会社

代表取締役社長 **福田 泰久**

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
ここに第102期における営業の概況と決算につきまして
ご報告申し上げます。

》 当期の事業環境

当期の日本経済は、雇用・所得環境や企業収益に改善がみられるなど、回復基調で推移いたしました。海外経済も総じて緩やかな回復が続きましたが、米中の貿易摩擦の拡大、中国の景気減速など、先行きについては不透明な状況が続きました。

主要事業の物流業界では、消費関連および生産関連貨物を中心に荷動きは堅調に推移いたしました。

》 当期の取り組み

中期経営5ヵ年計画「センコー・イノベーションプラン2021 (SIP21)」の2年目として、「事業領域の拡大」、「生産体制の強化」、「収益力の強化」などに取り組みました。

「事業領域の拡大」では、センコー株式会社が4月に「東富士PDセンター」(静岡県)、5月に「流山ロジスティクスセンター」(千葉県)、8月に「古河PDセンター」(茨城県)と「加須PDセンター2号倉庫」(埼玉県)、11月には「湖東倉庫」(滋賀県)をそれぞれ稼働いたしました。

なお、加須PDセンター2号倉庫は、センコー株式会社と株式会社ランテックが共同運営する初の3温度帯センターです。

株主の皆さまへ

また株式会社ランテックが、4月に「大阪支店南港センター」(大阪府)を稼働させるとともに、「福岡支店センター」(福岡県)を増床し、12月には「京浜支店かわさきファズセンター」(神奈川県)を開設いたしました。

海外では、上海扇拡国際貨運有限公司が5月に「青浦(チンプー)物流センター」(中国・上海市)を、11月には中外運扇拡国際冷鏈物流(上海)有限公司が「北京物流センター」(中国・北京市)を稼働いたしました。

タイでは、大手外食チェーングループの「MK Restaurant Group Public Company Limited」との合弁会社である「M-Senko Logistics Co., Ltd.」が7月から営業を開始いたしました。さらに9月、タイを拠点に航空・海上輸送事業などを行う「Best Global Logistics Co.,Ltd.」をグループに迎え、アセアン地域での事業強化を図っております。

「生産体制の強化」では、「アームロボット」や「無人フォークリフト」などの最新技術を導入し、物流センター内の省人化・機械化を積極的に進めております。4月に研究開発を進める「AI化プロジェクト」と「ロボティクスプロジェクト」を設置し、7月には次世代技術の開発・システム

販売などを行う「イノバテックスタジオ株式会社」を設立するなど、省人化・機械化の取り組みを加速させております。

4月にセンコー株式会社の海運事業を承継した「センコー汽船株式会社」が営業を開始し、海運事業の拡大を図っております。

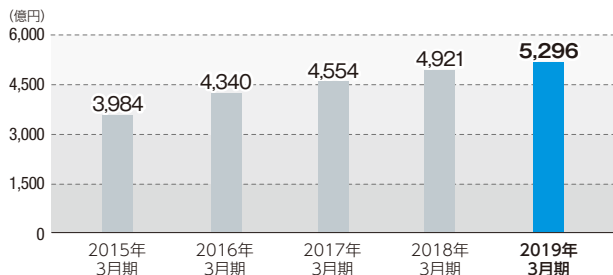
「収益力の強化」では、間接業務の効率化、物流現場での生産性向上などに取り組みました。

》 当期の業績結果

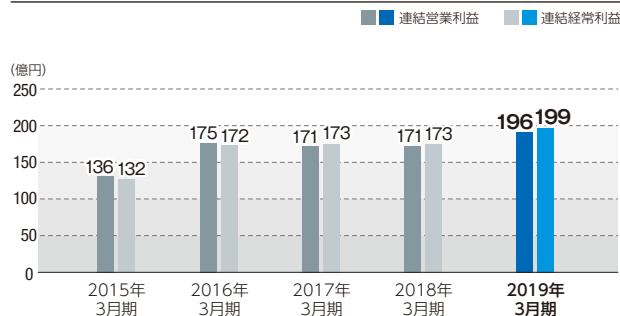
連結営業収益は、拡販や料金改定の効果、昨年度連結子会社化した安全輸送株式会社と株式会社オクムラの期間差影響、さらに4月からライフサポート事業会社(株式会社けいはんなヘルパーステーション、株式会社ビーナス、株式会社ブルーアースジャパンなど)を、7月からM-Senko Logistics Co., Ltd.をそれぞれ連結子会社化したことなどで、5,296億9百万円と対前期比7.6%の増収となりました。

利益面におきましては、外注費や燃料価格の上昇などのコストアップなどがありましたが、拡販や料金改定、連結

連結営業収益(売上高)



連結営業利益/連結経常利益



子会社化による増益効果、さらに退職給付債務に係る数理差異の費用処理額の減少もあり、連結営業利益は196億31百万円と対前期比14.9%の増益、連結経常利益は198億76百万円と対前期比14.8%の増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、株式会社ランテックなどを完全子会社化したこともあり、116億81百万円と対前期比22.9%の増益となりました。

▶ 今後の取り組みと見通し

今後の日本経済は、中国をはじめとする世界経済の減速懸念もあり、先行き不透明な状況が続くものと思われます。

物流業界におきましては、貨物の総輸送量の減少が予想される上、ドライバーをはじめとする労働力不足によるコスト増などで、経営環境は厳しさを増していくものと思われます。

このような環境の中、当社グループは中期経営5ヵ年計画に基づき、人々の暮らしと産業を支える企業グループとして、物流・商事事業を核に、「事業領域の拡大」などに取り組んでまいります。

次期連結業績予想は、連結営業収益5,600億円、連結営業利益209億円、連結経常利益210億円、親会社株主に帰属する当期純利益122億円を見込んでおります。

▶▶ 年間配当金は26円に増配

当社は、安定配当に加え、業績連動を考慮した配当を実施することを利益配分に関する基本方針としております。

この基本方針のもと、2019年3月期の期末配当金につきましては、従来の予想通り1株当たり13円とし、既に行っている中間配当金13円と合わせまして、年間配当金を26円といたしました。

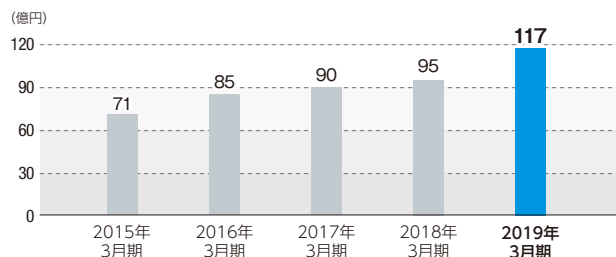
なお、次期の配当予想につきましては、業績予想を踏まえ、年間配当1株当たり26円(中間配当13円、期末配当13円)とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

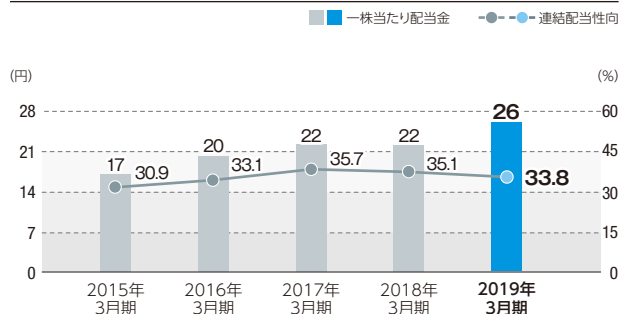
免責事項

本報告書で記述されている将来についての事項などは、予測しない経済状況の変化などさまざまな要因の影響を受けるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

親会社株主に帰属する当期純利益

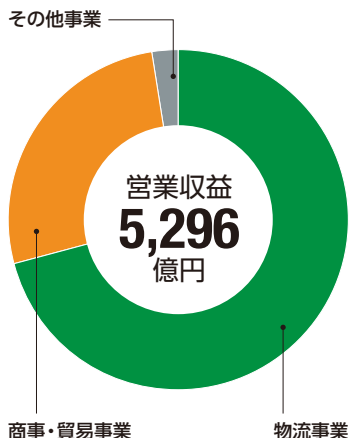


一株当たり配当金／連結配当性向



当期(第102期)のセグメント別(事業別)の概況をお知らせします

営業収益・構成比



物流事業

営業収益 **3,754** 億円
構成比 **71%**

商事・貿易事業

営業収益 **1,423** 億円
構成比 **27%**

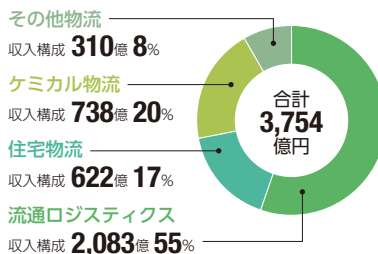
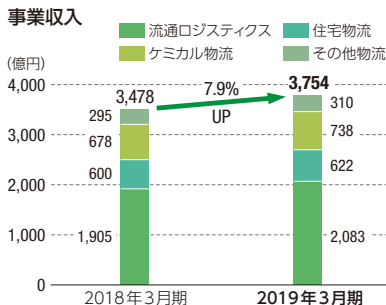
その他事業

営業収益 **119** 億円
構成比 **2%**

物流事業

新規大型設備の増収効果、日用品や食品、アパレル商品およびケミカル品などの拡販、料金改定の効果、安全輸送株式会社の期間差影響、M-Senko Logistics Co., Ltd.の連結子会社化などで、事業収入は3,753億84百万円と対前期比7.9%の増収となりました。

事業別構成比 71%



流通ロジスティクス

食品やアパレル、ディスカウントストアやドラッグストアなどの売上増や M&A 期間差があり、2,083億円(対前期比9.3%増)となりました。



住宅物流

新規拡販や、料金改定により、622億円(対前期比3.8%増)となりました。



ケミカル物流

化学品や樹脂、原料などの売上増で 738億円(対前期比8.9%増)となりました。



その他物流

当期の収入は、310億円(対前期比5.0%増)となりました。



商事・貿易事業

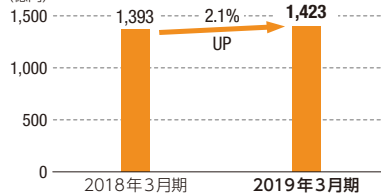
貿易事業や石油販売などの増収、株式会社オクムラの期間差影響などで、事業収入は1,422億94百万円と対前期比2.1%の増収となりました。



事業別構成比 **27%**

事業収入

(億円)



その他事業

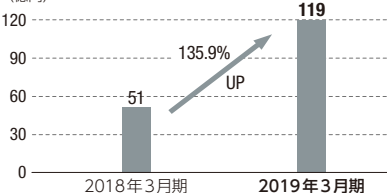
ライフサポート事業会社の連結子会社化による増収などで、事業収入は119億30百万円と対前期比135.9%の増収となりました。



事業別構成比 **2%**

事業収入

(億円)





介護支援

(株)けいはんな
ヘルパー
ステーション



高齢化社

スポーツ ジムの展開

(株)ブルーアース
ジャパン

健康 を支える



センコーグループは、 さまざまな事業に取り

センコーグループは、物流、商事事業を軸に、積極的に展開しています。

介護、老人ホーム、フィットネスクラブや、家事健康関連の社会的ニーズに応えています。

家事代行 サービス

(株)イエノナカ
カンパニー

生活





デイ
サービス・
訪問介護

(株)ビーナス



会を支える

人と暮らしを支える 組んでいます

人々の生活を支援する「ライフサポート事業」を

代行、レストランなどを展開し、高齢化や

を支える

引越し等

(株)センコー
リビングプラザ
ほか



農業

(株)センコー
スクールファーム
鳥取ほか



食
を支える

レストラン等

ウエノ商事(株)・
センコーフーズ(株)
ほか



海外における物流事業の強化とともに、 社会に役立つ取り組みを進めています

北京物流センターが稼働 中国の冷凍・冷蔵物流機能を一層強化

センコー(株)、(株)ランテックは、「中外運空運発展股份有限公司(「シノトランスエア」)」とともに、合弁会社「中外運扇拡国際冷链物流(上海)有限公司(「中外運扇拡」)」を設立し、2018年11月に中国・北京市内に冷凍・冷蔵機能を持った北京物流センターを稼働しました。

同センターは、北京首都国際空港から5kmの距離に位置し、シノトランスエアが所有する倉庫の一部を賃借した延べ床面積約9千㎡の2階建て冷凍・冷蔵倉庫で、空港と北京市をつなぐ高速道路のインターチェンジから2kmと至近で、北京市全域をカバーできる好立地にあります。冷凍・冷蔵設備に省エネ型の自然冷媒冷凍機を採用するなど、CO₂排出量削減と地球温暖化対策にも対応しています。

センコーグループは、センコーの現場力とランテックの冷凍・冷蔵物流の技術・ノウハウを活かし、中国国内の冷凍・冷蔵物流需要に応える取り組みを進めます。



「モーダルシフト取り組み優良事業者賞」 を3部門で受賞

センコー(株)と(株)ランテックは、2018年11月に一般社団法人日本物流団体連合会から「モーダルシフト取り組み優良事業者賞」を「改善部門」、「有効活用部門」、「新規開拓部門」の3部門で4件受賞しました。

改善部門賞では、センコーの幹線輸送の鉄道・海運利用率が前年度を上回る実績(63.4%→65.7%)を達成したことが評価されました。

有効活用部門賞では、センコーが栃木県と兵庫県間で、樹脂のフレコン輸送をトラック輸送からバルクコンテナの鉄道輸送に、またランテックが九州地区と東海地区間で冷凍冷蔵食品のトラック輸送を鉄道コンテナ輸送にそれぞれ転換したことが評価されました。

新規開拓部門賞では、センコーが三重県から岡山県、栃木県間で樹脂のバルクコンテナ輸送をトラック輸送から鉄道コンテナ輸送に転換したことが評価されました。



センコー

創業100年の歴史⑦

▶ 防災フェスタに出展し、協業で開発した 防災用商品を紹介

2018年9月、「防災フェスタ2018 in Osaka」にセンコーグループで出展しました。

防災フェスタは子育てファミリー向けに防災の大切さを知ってもらいイベントで、約12,000名の来場者がありました。

会場では、商事グループ4社の協業で開発した防災に役立つ商品を展示し、来場者から「非常食の種類がたくさんあることに驚いた」などの感想をいただきました。

会場で紹介した、防災に役立つ商品例

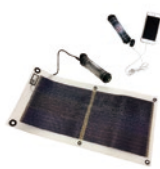
長期保存可能な
缶入りパン



携帯や保存に便利な
パッケージのようかん



どこでも充電できる
コンパクトソーラー



コンパクトに収納
できるヘルメット



カセットボンベで
発電できる発電機



ダンボール製
簡易トイレ



総合物流企業から流通情報企業へ

西暦2000年問題[※]への対応過程で、社内の情報資産の棚卸しが進み、これらを活かした新たなオペレーションシステムの「ベストパートナーシステム(BPS)」の導入が本格化しました。BPSは、情報と物流を一体化させたシステムで、データ交換、配車支援、車両動態管理、貨物追跡など40近くの機能を備えていました。

そして、BPSを中心とした情報技術やサービスでサプライチェーン全般の効率化を目指す「流通情報企業」への転換を図りました。

[※]コンピュータプログラムの日付処理が西暦の下2桁だったため、2000年の「00年」を1900年と誤認し、社会が混乱するとされた問題



物流センターに大型で高速な自動仕分け機を導入

CSRを経営の重要施策の1つとして積極的に取り組んでいます

地域・各地の産業、文化、自然を守り、育て、社会とともに成長するため、当社グループはCSR重視を経営方針の1つとして取り組んでいます。ここではその取り組みの一部をCSR報告書の中から紹介します。



CSR報告書は当社WEBサイトで
ご覧いただけます。

<http://www.senkogrouphd.co.jp/csr/report/>

センコーグループの海陸一貫輸送が災害対応にも効果を発揮

海運会社を傘下に持つセンコーグループの海陸一貫輸送は、環境負荷低減のみならず、災害対策の観点からも高い価値を備えています。

2018年7月に発生した西日本豪雨では、JR山陽線が寸断されました。そのため、船による代替輸送需要が一気に高まり、海運事業者への依頼が殺到、海運事業者が対応できない状況となり、お客様は九州から関西、関東への輸送手段に苦慮していました。

当社グループでは、九州から貨物を鉄道コンテナに格納したまま、船舶・鉄道・トラックを複合させ、本州各地につなげる輸送プランを提案。さらに、中京地区向けの大量貨物をセンコー汽船と連携し、臨時的貨物船を航行輸送するプランを提案し、大量の遠距離・代替輸送を実現させました。

2018年7月 西日本豪雨での対応事例



環境活動

特許認証「ハイブリッド式冷凍機」搭載トラックを導入

(株)ランテックは、メーカー各社と共同で「ハイブリッド電動式冷凍機」を開発し、特許を取得。トラックのエンジンで発電、バッテリーに蓄電し、バッテリーから冷凍機を作動させる画期的な仕組みで、燃料とアイドリング時間を削減し、CO₂排出の抑制に寄与しています。



社会活動

グループ内の社会貢献活動を評価し、優れた取り組みを表彰

センコーグループは、「社会貢献活動表彰制度」を2016年度から設け、優れた取り組みを表彰しています。2017年度は、こども交通安全教室やこども交通公園を通じた地域貢献などを行う(株)クレフィール湖東が、独自性と長年にわたる継続性を評価されて受賞しました。

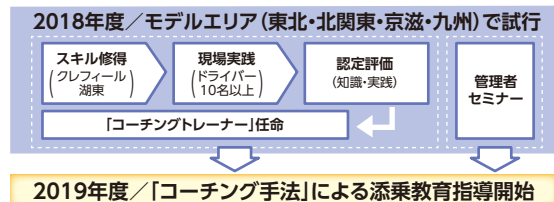


こども交通安全教室の様子

安全活動

新たな指導方法「コーチング」を導入しドライバーの安全への対応力向上へ

ドライバーの安全教育のため、2018年度に新たな指導方法「コーチング」を全国4エリアにモデル導入しました。ドライバー自身の気づきを促し、考える力を育て、安全への対応力をより高めることを目的としたものです。今後、コーチングトレーナーを育成し、全国に展開していきます。



健康活動

「健康経営優良法人～ホワイト500～」に2年連続で認定

センコーグループホールディングス(株)とセンコー(株)は、2019年2月、経済産業省と日本経営会議が共同で進める「健康経営優良法人2019～ホワイト500～」に2年連続で認定されました。当社グループが継続的に取り組む従業員の健康管理の充実や健康増進活動などが評価されたものです。



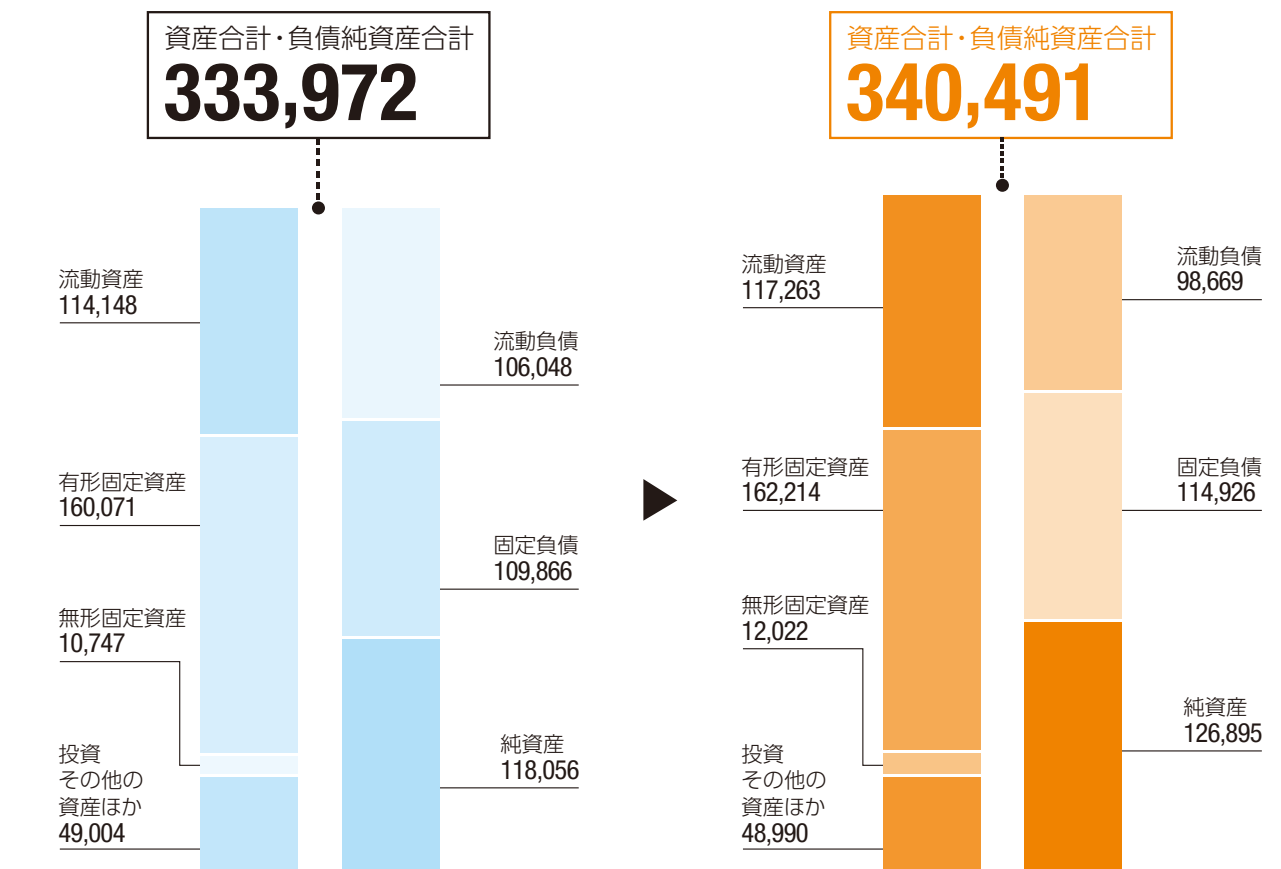
連結財務状況

貸借対照表の概要

単位：百万円

2018年3月31日

2019年3月31日



詳細な財務諸表は、下記URLもしくは
右の2次元バーコードからご覧いただけます。
<http://www.senkogroupd.co.jp/ir/library/brief/>

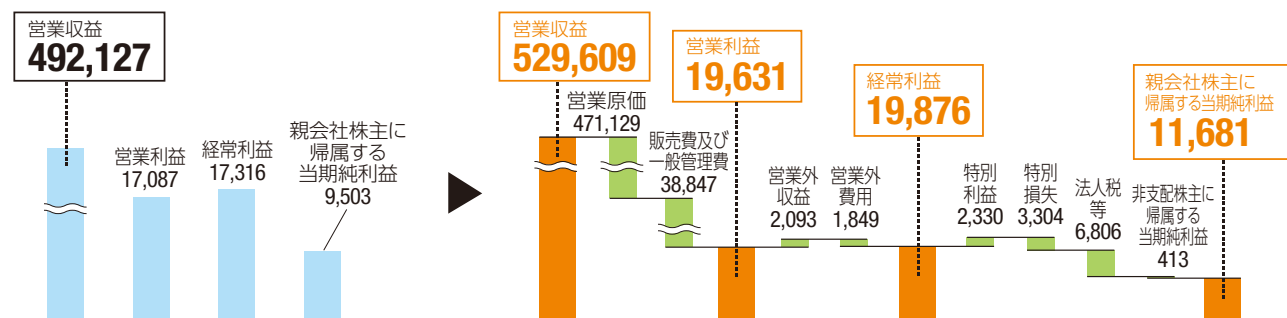


損益計算書の概要

単位：百万円

2017年4月1日～2018年3月31日

2018年4月1日～2019年3月31日

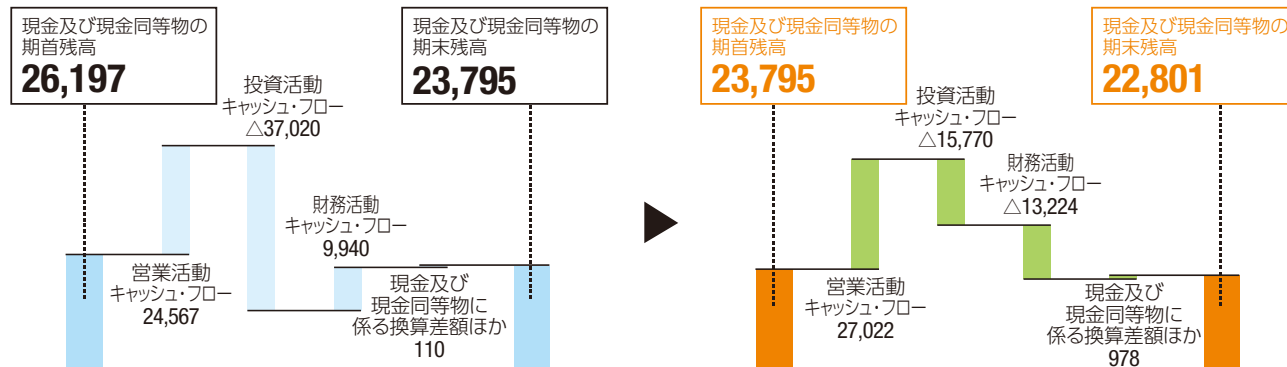


キャッシュ・フロー計算書の概要

単位：百万円

2017年4月1日～2018年3月31日

2018年4月1日～2019年3月31日



会社概要

(2019年3月31日現在)

商号	センコーグループホールディングス株式会社 (SENKO Group Holdings Co., Ltd.)
創業	1916年9月
設立	1946年7月
本社所在地	東京都江東区潮見二丁目8番10号
資本金	265億28百万円
グループ従業員数	17,081名
グループ会社数	132社(子会社121社、関連会社11社)

役員

(2019年6月26日現在)

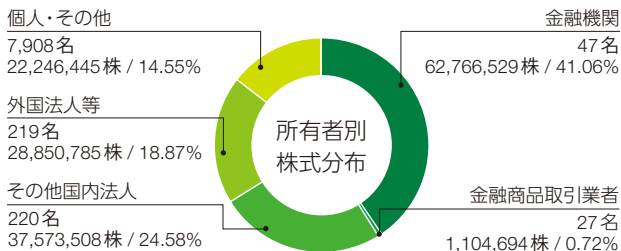
代表取締役社長	福田 泰久	常勤監査役	松原 圭治
取締役常務執行役員	佐々木 信郎	常勤監査役	鷺田 正己
取締役常務執行役員	白木 健一	常勤監査役	安光 幹治
取締役常務執行役員	上中 正敦	常勤監査役	松友 泰
取締役常務執行役員	村尾 進一	常務執行役員	大野 茂
取締役	山中 一裕	常務執行役員	竹谷 聡
取締役	米司 博	執行役員	篠原 信治
取締役	谷口 玲	執行役員	小久保 悟
取締役	飴野 仁子	執行役員	増田 康裕
取締役	杉浦 康之		
取締役	荒木 葉子		

株式の状況

(2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	294,999,000株
発行済株式総数	152,861,921株
株主総数	8,422名

所有者別株式分布



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.senkogrouphd.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じた場合には、 日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD
FONT



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

センコーグループホールディングス株式会社

〒135-0052 東京都江東区潮見二丁目8番10号

URL <http://www.senkogrouphd.co.jp>